

たより



第 14 号

平成 25 年度夏季教職員研修講座

【赤坂真二先生を迎えて】（上越教育大学大学院准教授）

「子どものつながる力を引き出す学級づくり ～学級指導の具体的ポイント～」

8 月 21 日(水)、昨年度に引き続き赤坂先生をお迎えして、学級づくりの研修講座を開催しました。赤坂先生の熱のこもったお話に皆が引き込まれ、講座満足度 100%の充実した 3 時間になりました。

赤坂先生は、これから 10 年の間にベテラン教員がたくさん退職することを踏まえ、教員養成についてしっかり考えていかなければ、学校組織が成り立たなくなると危惧され、構造的・分析的に若い教員に学級づくり等について伝授していくべきであるというところから話を始められました。



学級づくりの理想像は？

「先生、ぼくたちのクラスは、3 月には
どういう姿になっているの？」と子どもから尋ねられたとして、私たちは、その答えをきちんともっているのだろうか？と先生は問いかけられます。

「理想なき学級経営は、コンパスなきジ
ヤングル行脚のようなものです。」と切り出された後、河村茂雄先生（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）の「理想の学級集団」の「必要条件」「十分条件」を例に挙げられます。

必要条件

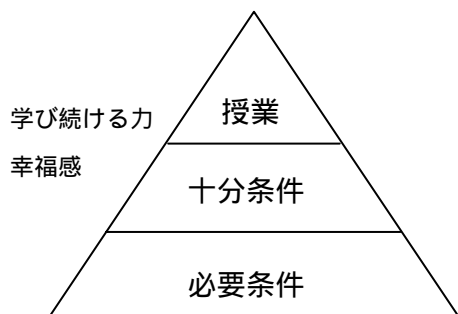
集団内に、規律、共有された行動様式がある。
【**ルールの確立**】
集団内に、児童生徒同士の良好な人間関係、役割交流だけではなく感情交流も含まれた内面的なかかわりを含む親和的な人間関係がある。【**リレーションの確立**】

十分条件

一人一人の児童生徒に、学習や学級活動に意欲的に取り組もうとする意欲と行動する習慣があり、同時に、児童生徒同士で学び合う姿勢と行動する習慣がある。
集団内に、児童生徒のなかから自主的に活動しようとする意欲、行動システムがある。

どんな学級経営をするにしても、 と は、児童生徒の成長を保障する最低限度の学級集団を形成するために外せない要件です。

ルールとリレーションが統合されて確立し、 と を満たしながら学級全体で様々な取り組みを達成していく経験の中で学級集団は理想型に近づいていきます。



赤坂先生は言います。「指導法の改善だけでは学力は上がらない。」と。つまり、学級づくりが進んでこそその学力向上であるということなのです。最近の子どもたちは「学び続ける力」が脆弱（ぜいじゃく）になっていると前置きされ、「学び続ける力」と「幸福感」とともに学力向上を目指すべきであると話されます。

心したいのは、複数の学級がある学年で、学級の最低ハードル・最低レベルをそろえるということです。「最低条件の力」とは、「ここを達成しないと問題が繰り返し起こり、学習や活動がねらったように機能しないことが考えられるレベル」ということです。

約束が守れる
協力できる
指導が入る
自己開示できる

また、「学級集団づくりのゼロ段階」（河村茂雄氏による）では、左記の段階のどれを優先すべきかについて、「**あんた、どう思う？**」「**どれが優先やと思う？**」と、隣同志ペアで話し合う時間を設けました。（この場面以外にもペア対話を随所に入れられました。）

赤坂先生は、はっきりとおっしゃいました。「の『指導が入る』これが大事なのです。」と。「学級担任としての能力は『一斉授業が成立するかどうか』です。一人二人勝手な行動をとる子がいても、頑張っている7～8割の子に認める言葉をかけて、味方につける...言うことをきかせられる能力なのです。」

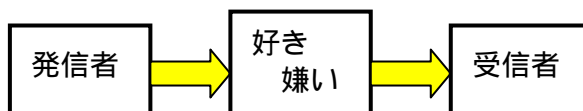


ただし、「言うことを聞いている」ということと、「集団として育っている」ということはイコールではありません。「子どもの教育は連続帯の中にある」というとらえのもと、「クラスがまとまったことで、一人一人に何を学ばせるのか。」が大事であると、赤坂先生は加えて話されます。

例えば、ある教師が担任したときは、まとまりのある学級だったのに、担任が変わったとたんまとまりがなくなったとすると、子どもたちは集団としての本当の学びをしていなかったということになります。「鵜匠が代わってもうまくいく集団としてのマネジメントをすること」それが、学級担任として大事にしたい取り組みなのです。



学級担任は子どもたちに実に膨大な働きかけをします。「人間関係づくり」「授業の運営」「学級の組織づくり」「ルールづくり」「生活指導」「事務連絡」これらすべての働きかけに必要なのが、「**教師のことば**」です。目の前の子どもたちに、いかに伝わるように話すかを考えめぐらさなければなりません。「**教師のことば**」には細心の注意が必要です。



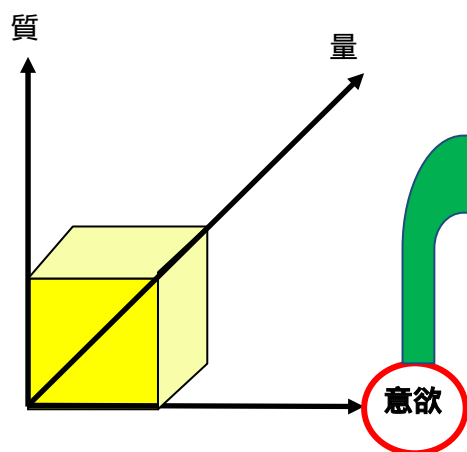
【フィルター】

思春期の子どもは？

思春期の子どもは、評価そのものよりも「誰から言われるかを重視」する特性があります。「『思春期は難しい』」のです。認知の発達により自己と他者の区別、他者と他者の区別が明確になる時期なのです。そこで問われるのが教師と子どもとの信頼関係の強さです。」と赤坂先生。

近年の調査によると、子どもたちの求める教師像は「自分たちに向き合ってくれる先生」、「つながってくれる先生」であることがわかってきているそうです。教師の授業力向上には時間が必要ですが、教室の日常は教師の力量の向上を待ってはくれません。教室で子どもたちと何でもないような話をしている方が、クラスがまとまるとも話されました。「本当の授業は、子どもとつながった中で行うものです。」とも。さらに、学力向上についてのお話は続きます。

学力向上 = 意欲 × 質 × 量 (時間)

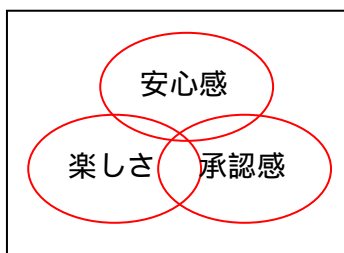


「意欲」の向上が学力を高める。
「意欲」を司るのが学級集団づくりであり、その元は教師と子どもの信頼関係である。子どもたちに「やる気」を出せる教師は「あること」をしている。

教師が子どもに関心をもっていることが大切。
「アナタノコトガ、スキダカラ〜！」
韓流のアプローチも効果的！
好感をもって子どものニーズに共感すること。それを感じ取ったとき、子どもの学習意欲は高くなる。

良質のコミュニケーションが生活満足度を上げる

つながるエネルギーの素は会話



最初は、「つながる会話」をT - C (教師と子ども) 間で保障します。その子のことが大切だということを教師が伝えるのです。「この話題はこの子」「その話題はあの子」という具合に、学級の子どもたちのことをよく知っているということが前提です。

やがて、「つながる会話」をC - C (子どもと子ども) 間で保障するようにします。つながるエネルギーを高める一番の方法は「一緒に喜ぶこと」だと赤坂先生は言います。

精神対話士に学ぼう

「精神対話士」という専門職があるそうです。この人たちは、孤独や寂しさ、心の痛みを感じている人に寄り添い、暖かな対話を通して気持ちを受け入れ、共感し、クライアントが人生に生きがいを持ち、よりよい生活を送れるよう精神的な支援を行う心の訪問ケアをします。(「財団法人メンタルケアHP」による)

精神対話士の「相手の存在を認めること」「相手の言動に関心をもつこと」などの姿勢には、教師の学ぶべき点が多いと赤坂先生。

例：「相手の言動に関心をもつ」

- ・「さすが！」とその場で褒める。「笑顔がいいね！」と気付いたことを褒める。
- ・「一生懸命聞いているね！」と事実を指摘して褒める。
- ・「よく知っているね！」と博識を褒める。

例：「相手の存在を認める」

- ・あいさつは存在の承認そのもの。
- ・「～という気持ちなんだね。」と共感すること。
- ・「最近どう？」「今日はいい天気だね。」（気になる子どもとは近くで...近接行動）
- ・「元気だった？」（声をかけて気にかける）
- ・「大丈夫」（不安感を取り除く）



「小さな種まきを毎日毎日することが、子どもたちの『やる気』を引き出すのです。」と赤坂先生はおっしゃいます。「世間話力」も侮れません。「つながるおしゃべりで相手を元気にすること」を大切にする必要があります。ポイントは、共通点を探すこと。相手が優位になれるのを探すことです。

学級づくりで何よりも大切なのは、教師が子どもたちに「好き」を示すことだと赤坂先生は繰り返し話されます。先生は、クラスの子どもの誕生日には手作りのクラフトケーキに口ウソクを立てて毎回お祝いをしたそうです。クラスの記念日にはくす玉ならぬ「くす箱」を用意すること、マラソン大会には全員に手作りメダルを渡すなど、様々な取り組みを通して子どもたちに「好きだ、好きだ、大好きだ！」を伝え続けたそうです。

子どもたちの願いは、「学校にいてホッとしたり楽な気持ちになったりすること」という調査結果が出ています。それこそが学びの根源だと赤坂先生は指摘します。

クラス会議のすすめ

再び話は「理想の学級の十分条件」に戻ります。

児童生徒の自主的に行動しようとする意欲を高める行動システムづくりを赤坂先生は提唱されています。その一つとして、自分たちの生活のあり方を自分たちで決め、達成状況の評価も自分たちで行う「クラス会議」です。

「教師自体が最大の環境設定」と赤坂先生は話されます。様々な手立てで学級は変わるのです。その可能性は無限大だと教えていただきました。

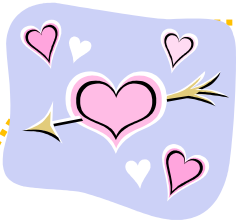
クラス会議の流れ

輪になる。（全員が対等であるという認識をもたせる）
話し合いのルールを確認する。（決めたら守らせる）
コンプリメント（アイスブレイク）の交換をする。
前回の解決策の振り返りをする。
議題の提案をする。
誰の課題であるかを明らかにする。（個人的な悩みであれば、援助の案を出し合う。「みんなが決めますか？提案者が決めますか？」という働きかけをさせる。）
解決策リストをつくる。（思ったことをどんどん言う。全て「いいね、いいね。」と認める）
作戦タイムをとる。（休憩時間にしない）
解決策の検討をする。（これをしたらどうなるか？についてとことん話し合う）...生徒指導にも欠かせない視点。

「カフェ形式」で話し合いを
見える化する工夫も取り入れ
たい。（話し合いの真ん中に
携帯ホワイトボードを置く）

全員の力を一人のために。
個人の援助で集団が学ぶ。
そしてリーダーが育つ。





みなさんのアンケートから

感覚ではなく、理論としての学級づくりの方法がよく分かりました。すごく楽しい講演でした。学校の他の教職員にも聞かせたいと思いました。

ここ数年、学級づくりで苦悩することが多く、何かにすがりたい気持ちでこの講座を受けました。今日のお話を聞きながらこれまでを振り返ると、納得できることが多かったです。学級づくりの失敗は、子どものせいではなく、やはり自分にあるのだと思います。初心に帰って、まず自分が変わらなければと思います。

初任です。大学では学級づくりに関してほとんど学習することなく4月を迎えたので、7月までの3ヶ月間、本当に試行錯誤でした。今日、具体的に話を聞くことができ、「9月から～をしてみよう。」という案が見えてきました。本当に感謝です。

非常におもしろい講演をありがとうございます。私はまだ教師経験が浅く、日々「これでいいのか。」と自分の学級経営に疑問を持ちながら行っていました。今日の講演を聞き、「自分の取り組みでよかったんだ。」と安心したところと、「自分がやっていたことだったんだ。」と気付かされたところと、「そんな手立てもあるのか。」と驚かされたところがありました。9月から学んだことを子どもに返していきたいと思います。

赤坂先生のお話を聞くのは初めてでしたが、「すてきなお話が聞けるよ。」と教えていただいていた。今日、お話を聞いて「納得！」と思いました。すごく楽しくわかりやすいお話が聞けました。

クラス会議というシステムがいいなと思いました。教師と子どもの信頼関係をつくるための具体的なお話が聞けてとてもよかったです。2学期から取り入れてみようと思います。

昨年度に続き、呼んでくださってありがとうございます。屋外よりも熱い内容の講演でした！笑うっていいですね！「クラス会議」は、私の取り入れている「子どもホワイトボードミーティング」と通じるところがあるので（可視化。発散 収束 活用）、さらに詳しく知りたいです！体験してみたい！クラス会議の部分だけでワークショップを入れながら半日～1日ぐらいの講座があれば参加してみたいです。

ただただ楽しい講座でした。何だか明日からの学級づくりが楽しみになりました。「私にもやれる！」とあてのないわけのわからない自信がわいてきました。そして、「私も子どものことが大好きですよ！」と声を大にして言いたいです。あー早く子どもたちに会いたくなりました。

アンケートを読ませていただき、こんなにもたくさんの先生方が、「子どもたちが大好き」で、学級づくりに悪戦苦闘しながら「もっと学びたい。」「子どもたちに学んだことを返したい。」と試してみえることを感じ、胸が熱くなりました。

研修講座後、赤坂先生からメールをいただきました。紹介させていただきます。

伊勢市の先生方は、去年も反応がよく、熱心に力強く学ぶ方々に感激しましたが、今年はそれ以上の熱を感じました。ホールは、私の研修には不向きなのですが、先生方の意欲とスタッフの皆さまの本気度がよい時間になってくださったと思います。

